

日工販ニュースVol.17 No.7



もくじ

第36回 通常総会

2

「会長挨拶」 石川 正治	2
「議事録」	4
「記念講演：現代偉人伝」 作家 高任 和夫	6
「新役員紹介」	14
「懇親パーティー」	16

私の読書評「昭和史1926 1945」を読んで

大石機械(株)

大石 直良

19

話題の技術「マシニングセンタによる金型の曲面形状測定機能について」

..... (株)牧野フライス製作所

森 規雄

20

SE教育「合格者」

22

甘口辛口「マイ設備投資？中止！」

赤澤機械(株)

赤澤 正道

23

リレー随筆 Part 2 「成長とは」

(株)山 善

白井 一彰

24

工作機械と私

(株)セイロジャパン

稲福 肇

25

我が社を語る

西川産業(株)

西川 正一

26

議事録「教育」

27

統計資料「FA流通動態調査1」業種別受注額」

28

お知らせ「“歴史的価値のある工作機械を顕彰する会”第7回顕彰式典開催！」

30

消息・行事

30

会員会社

32

SE資格者にご回覧下さるようお願いいたします。

会長挨拶



日本工作機械販売協会 会長
石川 正治

日本工作機械販売協会の第36回通常総会開催に当たりご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には常日頃より日工販の諸事業、活動に対しご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。この場を借り改めまして厚く御礼申し上げます。

日本の工作機械業界は日工会の統計によりますと、2002年10月よりこの4月まで連続して31ヵ月間、毎月の受注高が対前年同月比プラスを記録し、右肩上がり好調に推移しております。昨年の5月以降は連続12ヵ月間、毎月の受注高が1,000億円を越し、量的にも高い水準を保ち続けております。昨年度の総受注高は前年度比42.5%増の1兆3,006億円となりました。この内、私共日工販会員に関連深い内需は自動車産業を筆頭に、幅広い分野で設備投資の拡大が見られ、前年度比49.2%増の7,175億円となりました。外需もアジア向けのみならず欧米向けも増加、前年度比35.6%増の5,831億円となりました。

この流れは一先ず踊り場に差し掛かっているようですが、今暫くは急激な落ち込みなく続くものと予想されます。原油の高騰、為替問題あるいは世界政治の動きなどに多少の不安は残すものの、依然として自動車産業は堅調ですし、IT・電子関連も回復基調が見えてまいりました。多くの企業では時価会計、減損会計への処理も済まし、財務基盤をしっかりと固め、これから新しい成長過程へと踏み出すべく設備投資意欲を強めております。一方では、バブル崩壊以降、禁欲的とも言えるほどに設備投資を抑えてきた結果、製造設備が老朽化したり新しい技術開発あるいは新しい製品の製造に対応したりする為に、いやが応でも設備更新の必要に迫られている面もあり、生産財の需要は底堅く根強いものと推察されます。

こうした環境の下、日本の工作機械業界は今迄にはあまり経験したことのない息の長い

安定した需要を持ち続ける可能性が高まって来ております。かつては、業界内でも自嘲気味に言われました「一日天下に三日乞食」を、今回は脱することが出来、安定した業績を上げられるようになると期待しております。私共も、浮つくことなく丁寧な、地に足の着いた秩序ある営業を実践した上で、明るい次世代を築くよう努めたいと考えます。

「日本の生きる道はものづくりにある」のは日本人誰でもが理解し認めるところです。ものづくりの最も基本となる工作機械、マザー・マシンが成長し発展していくことは、そのまますぐに、日本の成長・発展に通ずるに違いありません。中国、韓国始め諸外国の追い上げが急な今日、日本の工作機械業界も新しい技術・生産財の開発が望まれています。幅広い業界の需要家と限りなく多い接点を持つ、我々日工販メンバーが、ものづくりの現場にあるニーズ・情報を的確に掴み、新技術・生産財の開発に反映させて頂くよう働きかけ、その一助となっていくことは大変重要で意義ある役割でありましょう。反対に新技術や新開発の工作機械をより多くの人々、ユーザーに紹介して、ものづくりのお手伝いをさせて頂くことも又、大事な務めと考えます。我々日工販のメンバーは、ものづくりに直接携わる訳ではございませんが、ものづくりには欠かせない一端を担っている事を肝に銘じ、誇りを胸に仕事を進め社会に貢献したいと思えます。同時に、この役割・務めを次の世代にも引き継いでいけるよう、人づくりにも一所懸命取り組むことが大切であり必要だと思えます。

昨年度、日工販は会員増強プロジェクトを推進し、幸いにも新たに、正会員9社、賛助会員12社に入会頂き、現在の会員数は合計145社となりました。会員各社と社員の方々を併せますと相当なパワーが生まれることとなります。皆様方の力を結集し、有効に生かし、幾らかでも社会の健全な発展に寄与すると共に、我々会員各社の経営安定化に役立てるよう、日工販の運営を心掛けてまいる所存です。

その為にも各地区での活動をより活発化し、より多くの会員の方々に参加して頂けるよう、そして数多くの意見を寄せて頂けるよう取り組んでまいります。人づくりの一環として、SE教育事業を更に充実させると共に、製品講習会や研修会、講演会など各種催事にも今まで以上の力を注ぎ、より魅力あるものにしていくよう努めます。参加者同士の交流にも道を開き、会員各社の益々の発展に繋がるよう尽力したいと考えます。

皆様方のより一層のご理解、ご協力と積極的なご参加を是非お願い申し上げます。

議事録

日 時：平成17年6月8日(水)

13:00 ~ 13:52

場 所：八重洲富士屋ホテル

[議 事]

1. 開 会 (13:00)

莊司専務理事が進行係となり、「総会次第」に従い議事を進めた。

2. 総会の成立

専務理事より「本日の出席者45社(51名) 有効な委任状提出26社、合計71社であり、現在の在籍正会員数は73社につきこの総会は定款の定めにより成立する。」旨報告した。

3. 会長の挨拶

石川会長より、「会員各位のご協力をいただき只今から上程議案の審議をお願いいたします。」との開会の挨拶があった。

4. 議長の選出

定款第14条に従い石川会長を議長に選出した。

5. 議案の審議

第1号議案から第3号議案まで審議の結果、それぞれ次の通り承認された。

(1) 第1号議案

平成16年度事業報告並びに決算案承認の件

会長が事業報告書の「概要」を述べられた。

専務理事が「決算報告書」を説明した。

議案の審議に先立ち議長は監事に対し監査結果の報告を求めた。

監事を代表して三橋監事から「平成16年度の収支計算書、貸借対照表、諸帳簿、証憑を監査した結果、適正であることを認める」旨報告があった。

議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。



(2) 第2号議案

平成17年度事業計画案並びに予算案承認の件
議長が事業計画案を提示、専務理事から予算案について説明した。

事業計画では基本方針に基づき、平成16年度の事業の概要を引継ぐとともに、各行事の継続実施と充実を図る。

一般会計予算は事業費の増額予算を組むも、会員増による会費収入増を見込み、収支差額は前期比増でプラスを確保する。教育事業特別会計は、基礎講座受講者増はあるもののSE講座受講者減見込みにより受講料を主とする収入総額は減少し、基礎講座受講者増による講座費用増並びにSE講座・更新研修通信講座テキスト改定費用発生による支出総額の増額を見込み、収支差額は前期比減となるも、プラスを維持する。

議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。

(3) 第3号議案

会長・副会長承認の件

議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。



以上で議案審議は終了し、議案は全て承認された。

6. 議長挨拶

議長は、以上をもって全議案の審議が終了したことを告げるとともに、出席者の協力に対し謝辞を述べた。(13:40)

7. 会長表彰

表彰・感謝状贈呈基準により、石川会長より10年間委員を勤めた(株)東陽 取締役社長 羽賀昭雄氏に表彰状が授与された。

8. 石川会長就任の挨拶

石川会長より、会員各位のご支援を受け、協会の更なる発展に尽力する旨挨拶された。

9. 閉会

専務理事より、閉会を宣し通常総会を終了した。(13:52)

『現代偉人伝』

講師：高任和夫氏 作家

記念講演は演題を「現代偉人伝」と題し講師を高任和夫氏(作家)にお願いし、参加者107名を集め、羽賀総務委員長司会のもと執り行われた。

講演者が3年ほど前から日経BP社発行「日経マスターズ」に各界の著名人とのインタビュー内容を掲載していたものを、昨年「仕事の流儀」という本にまとめているが、その中で特に印象深かった点について話をされた。



講師略歴：

作家、東北大学法学部卒、三井物産入社、審査部勤務、「商社審査部25時」発表、審査部管理室長を最後に退社、作家活動に専念。

現在「日経マスターズ」でマスターズ列伝連載。日経新聞コラム「サラリーマン生態学」執筆、朝日新聞に書評連載。

近著：

「架空取引」「債権奪還」「燃える氷」「仕事の流儀」

「粉飾決算」「幸福の方程式」

要旨：

皆さんこんにちは。私は、もとはサラリーマンであり、それも審査部に所属して不良債権の処理を手がけていた。取引先が倒産したとき、会社更生法の申立てをされたときにどう対処するかという仕事にずっと携わってきたし、架空取引の対応を数多く手がけてきた。本が売れなくなったら架空取引の処理ができるとはいえるが、されどそれが再就職に役立つかは分からない。架空取引は暴力団とのかかわりがでてくるケースが多い。架空取引だから対象商品がなくてもできるし、なんでもよく、色々なケースがある。商社に入って物も売らないでそのようなことばかりやって面白いかとよく同僚に聞かれたが、この仕事はまことに面白い。仕事はどん



著書を紹介する羽賀委員長

なものでも一生懸命すると面白くなってしまふ。不良債権にかかわる暴力団との話ばかりではなく、企業訪問があり、あるいは税務・会計処理があり、色々の事件の中でそれらをひとつひとつ精査していくと大学の講義よりはるかに面白い。不良債権処理をやっていると、可愛そうな職場で仕事をやっているなどよくいわれるが決してそんなことはない。ただ14~15年もやっていると飽きてくる。営業の仕事をするとう気分転換もできるかも知れないが、そんな器でもない自分自身自覚している。そんな時、気に入らない上司が来て、仕事量も減少していたところへある雑誌社が「商社の与信管理の手法」について書いてみないかとの誘いがあった。何故そんな話になったかということ、ちょうど法改正が検討されていて、そんな時よく現場の生の声を聞き参考にするケースが多いので要求があったと思われる。メーカー、商社、ディーラーを集めて今度の改正試案についてどう思うか意見聴取をする。本人としてはそんなことを書いても誰も読んでくれないからお断りした。しかし法についてのドキュメント風なものであれば書けると言ってしまったので、先方はそれなら小説のつもりで書いて欲しいということになり「商社審査部25時」を連載した。めくら蛇に怖じず書き進めた。それでも小説家になるつもりはなかった。1年半連載した。会社を休む訳にもいかず、土日と平日は朝早く起きて書き上げた。何とか仕上げたが、子供の面倒は見ない、女房は怒り出す、原稿料は安い。400字詰め原稿が一枚250円で会社の残業の方が効率が良い。社内の同僚は「本を書いて儲かっただろう。銀座に連れて行け。本を読んでやるから持って来い。」と要求され、こんなことはやめようかなと思った。幸なことにこの本は売れたが会社のボーナスに毛の生えた程度で原稿料で、こんなことなら仕事を一生懸命してAランクのボーナスを貰った方が割がよい位である。その

後も依頼はきたがお断りして作家としての人生は終わるはずであった。ところがものを書くということは麻薬みたいなもので自分の本が店頭においてあるとゾクゾクとくる。その後2年ぐらい経ち、朝日新聞からエッセイ、講談社から何か一冊書いてほしいとの要望に応え、ズルズルときてしまった。36才の時に書き始め当然仕事はそれなりにこなしてきたが、43才の時マロリー・ワイズ症候群に罹り、食道と胃の間の粘膜が裂けて洗面器2杯分の血を吐いてしまった。胃潰瘍と違って手術ができず自然に治癒するのを待つだけである。3週間水も一適も飲めず入院。見舞いに来た同僚が「窓からサラリーマンが通勤する姿を見ると早く出社したくなる。我慢できなくなるよ。」と言うが本人はちっとも行きたいとは思わない。寝ているのが快適である。ゆっくりできるし、輸血、点滴していてもじっとしているだけで痛いわけでもなく非常に快適であった。何もなく、暇なので小説を書いていた。看護婦は体によくないのでやめてくれと言うが、今まであまり考えていなかったが会社勤めは自分に向いていなかったのではないかと自覚した次第である。子供は小さいので教育費がかかる。住宅ローンは大分残っている。もの書きの先行きなど将来どうなるか分からない。とても会社を辞められない。50才になりローンも終わり、出版社からはブランクが5年間もあり書けるのかと憂慮されたが、その時、今が潮時だと決断して作家になった。高い志があって作家になった訳でもなくなんとかやり始めたのが本当の自分であり成行きであった。

本題に入り現代の達人達の、第2の人生、仕事のやり方について考えてみる。

時代が厳しくなり、リストラ、終身雇用の終焉であり、高齢者社会となった今、サラリーマンの変化を最初に捉えた方は堀田力氏(1934生)である。検察庁の特捜検事で、ロッキード事

件で田中角栄を逮捕した人であることはご存知のことと思われるが、若かりし頃将来は検事総長になると嘱望された方であったが、退職されて「さわやか福祉事業団」の理事長になられた。同氏は昭和36年に役所へ入ったが当時と今ではサラリーマンの役割が変わってきた。当時、サラリーマンは出世すると奥さんに電気冷蔵庫、洗濯機を買ってあげられ、奥さんは非常に喜んだ。出世と目的がものに結びついて明確であった。ところが時代が進むとともにだれもが買えるようになった。人は何のために出世するのかという組織のポストが自分のアイデンティティーになってきて、組織の順番そのものが目的になってきた。私も掘田氏より時代は下るが組織の中でええ訳ではないが自分が何処にいてどんな状態であるかに関心はあった。ただ私は会社で不良債権の処理という職人的な仕事でそれを上手くこなせばよいという楽しみがあったので若干違ったが、しかし出世病はあった。

京都大学の森敦教授は400年来続いた生き方のスタイルが変わってきたといわれた。社会の中で安定した仕事につけられた江戸、明治、大正、昭和と持続してきた大きな流れが切れてしまったのではないかと。今は時代の切れ目であり、もっとその時代の中で楽しめばよいのではないかと。と言われる。

ここで我々の先輩はどのような生き方をしてきたのか三つほどご紹介したい。

片山豊氏、日産フェアレディZの生みの親。
1909年生まれ。

日産で初めてモーターショーを開催した。当時は、業界紙の記者は取材に来るが一般紙の記者は全然来なかった。骨のある人で当時日産では労組が力を持ち会社の旅行に行くにも労組の許可が必要であったといわれる。これに対抗したため市場調査の名目で、50才でアメリカへ追放されてしまう。当時アメリカではビッグ3が強

大な勢力を持っていて日本車など入る余地のない時代であった。大手はどこも取り扱いをしてくれず、そこで彼は中古車ディーラーを中心に組織して販売網を組織した。彼の考え方は「形を売るのではなく走り売る。」という信念の持ち主であったので、アフターサービスと部品に力を入れていた。そして新車の開発を求めダットサン240Z即ちフェアレディZが開発された。彼はアメリカでよい時はダットサンブランドで3,000台～5,000台の販売実績をあげVWを抜いて外国車のシェアトップを築いた。業績を上げたが相変わらず労組に睨まれて68才で子会社へとばされてしまい、サラリーマン人生は終わったといえる。それが何と帰国20年後に米国内での推薦で、日本では豊田英二、本田宗一郎、その他数名しか入っていないアメリカ自動車殿堂入りを果たした。その後日産の名誉社員として遇された。不遇の20年間どう過ごしていたのか。米国のディーラー、ユーザー、全米Zカークラブが行事に呼んでくれた。片山氏のお陰で日産の販売に携わった人達は皆大金持ちになっていた。非常に義理を感じて何かにつけ呼んでくれる。ある時はZカーで3ヵ月かけて米国内をZ型に走るラリーが催され、各地で歓迎を受ける。この20年間本当に楽しかったといわれた。ゴーン氏が日本に来て初めて記者会見をし、日産の再建の話をした時、記者は誰も拍手をしなかったが片山氏1人が感激して拍手をして歓迎した。彼はゴーン氏に会い、ダットサン名の復活とフェアレディZを作って欲しいと2つの頼みをした。その時ゴーン氏は、日産の復活をしに来たのであり、ダットサン名の復活は断られたが、フェアレディZは作ると約束してくれたそうだ。彼はアメリカでミシュランの社長をしていた時にZを愛用していたとの逸話がある。そしてフェアレディは復活したが、スポーツカーは年寄りが増えて楽しむものであり、暇があればスポーツクラブへ顔を出し若者との会

話を楽しむべきである、と今97才の片山氏はいう。会社で認められなくともアメリカで中古ディーラーのネットワークを作り顧客指向で販売を開拓していった偉人である。先週すこぶる元気なお姿をあるレース場でお見受けしたと報告が入っている。

佐々木正氏、1915年生についてお話する。

「電卓の父」である。シャープ創業者の早川徳次氏に招かれ入社(ヘッドハンティング)。「どれだけ小さく、いかに安く」を追求して成功した人である。血尿が出たり、胃潰瘍になったり苦勞された人である。お会いする時、気難しい技術屋と思っていたところ柔和で穏やかでとても楽しい人であった。電卓競争を勝ち抜き、また液晶競争も勝ち抜いてシャープは家電メーカーとして大きく変貌した。誰でも知っているようにスタートはもともとシャープペンシルのシャープである。ベルト、バックル等も作っていた。今や大電機メーカーであるが大飛躍をさせたのが電卓である。電卓の開発により情報が初めて家庭の中に入り、その後ワープロ、パソコン、ファクシミリと次ぎから次ぎと家庭の中へ浸透した。これは佐々木氏の電卓開発が以後の日本の家庭を変えるきっかけとなったともいえる。技術開発は苦勞が多かったと思うが、それでも楽しそうな顔をしている。どんな楽しみですかとお伺いしたところ、「山に登るような楽しみがある。ただ気をつけなければならないのは落ちないように努力する必要がある。」モットーは何かとお伺いすると、剣道、柔道と同じく「技道」として精神性を高める必要があるとしきりに言われる。「金儲けに固執しては行けない。動機が不純であってはいけない。」とも言われた。技術者の考え方は商社マンとは違うところがある。

創業者の早川社長は素晴らしい人であると言われる。その理由として「経営で最も大事なものは

人間を作ることである。お金や技術は手段にすぎない。」としきりに話される。どうもこの時代の人はその辺が非常に明確であったと思われる。佐々木氏は早川社長に「悪い人とは付き合いな。手を切りなさい。よい人と付き合いなさい。」とよく言われた。当たり前的事ではないかと思ったが60才~70才代になってようやく意味が分ってきた。とりわけ技術的に高かったり、お金が儲かってくると悪い者が群がってくる。だから気をつけなさいということだと理解しているとのこと。

片山氏とは違った意味で佐々木氏は精神性を重んじておられる。いずれも90才代のご年齢。私にとっては父親ぐらいの人で、あまりお話ししたことがない年代で大変新鮮に感じられた。

次ぎは山川静夫氏(1933生)である。NHKの紅白歌合戦の司会等をおやりになっていた方で、当時視聴率が70%を越えていた番組で、宮田輝氏の後を継いだ。山川氏に代わったら69.9%と70%を0.1%切ってしまったため番組を降ろされてしまった。相手の黒柳徹子氏は、翌年鈴木健二アナウンサーと、組んで出場し、1人だけ降ろされてしまった。不都合なことをした訳でもないのに、なぜ自分だけがといまだに怒っている。

大変変わった経歴の持ち主で学校にはほとんど顔を出さず、歌舞伎座の近くを歩き回り中村歌右衛門、勘三郎と遊び歩いて歌舞伎にのめり込んでいた。楽屋での役者のおせんべいの食べかたを見て如何に自分が田舎ものであるかを痛感したそうである。ネクタイを結ぶのを見てもその結び方を感じて見ていた。要するに歌舞伎の世界の人と付き合いにより完全にその世界に取り付かれてしまった。そんな人がNHKに入ってしまった。組織というものはないと感じてしまった。いくら頑張ったところで勘三郎等歌舞伎の人にはかなわ

ない。出世してもたいしたことはない。そう思ったことを感じてしまった。しかしこの人は特別主幹までなった人であるから並みのアナウンサーではない。覚めたところがあった。NHKの組織のよいところは会いたいと思う人とは会えるし、話も出来る。食事もできる。大阪では文楽の人と付き合い、仕事をしながら古典芸能の知識を深めてしまった。定年後の今、三越劇場で「山川静夫夫人劇場」を40回興行しているが50回開催を目標としている。この人の生き方で面白いのは完全な複成人生で、NHKの仕事と古典芸能の仕事をそれも100%NHKを利用してとても楽しく仕事をしてきた。これが複成人生の楽しいところであろうが、簡単にはいかない。1年の内、何度か脳梗塞で倒れ、回復した時に会った。発病後失語症になってしまったが、野球放送の音を消してテレビの画面を見て実況放送をし、毎日繰り返していくことにより徐々に回復した。病気をして分ったことは「人間には基本が3つある。「書く、話す、動く」ということであると。山川氏の容姿はかつてはきれいな体型であったが、今はすっきりとした体つきになられている。この3つの基本を守って仕事をして来たとお話された。

以上3人のサラリーマン、それも年配の方のお話をしたが片山氏、佐々木氏のお話にあるように時代の変化にかかわらず先取りをしているということをお話した。

次に中年の危機、高齢者に関することでもあるが、俳優で「用心棒」、「天国と地獄」等に出演し活躍された仲代達矢氏(1932生)の話である。黒澤、小林等の名監督に恵まれよい映画に20才代で出演している。「乱」、「影武者」はその後の作品で、貧乏で目だけギョロついている役者があつという間に大スターになり次ぎから次ぎとよい役につき、素晴らしい女性と結婚した

が、30才代になると仕事を貰っても脚本を見てつまらなくなってしまった。監督、作品、作り方全てそう感じたそうで、やる気を無くしてしまった。スポーツ選手にもあることで、若くして頂点を極めた人の不幸である。我々サラリーマンでは40才代でやっと読めることが、特殊な世界、芸能界では人にもよるが10代、20代、30代と早くして先が分ってしまう。仲代氏は、30代はゴルフばかりして40日連続でしたこともあり、あの身体と運動神経の持ち主でもあり、瞬く間にハンデが12になってしまった。どうにも仕事をする気になれない。そうこうするうちに40代になりぱっと目覚めたそうである。いつまでもこんなことをやってはられない。充電期間も終わったといえるのでしょうか。そのころ夫人が無名塾を作り新人を募集して教えていた。自分は庭でパターの練習をしながら見ていたが、なんでこんな下手くそ達を教えるのか、馬鹿じゃないかと思っていたが、少し話でもしてやろうかと一升瓶を抱え車座になって説教を始めた。そのうちにだんだん胸に火がついてきて、何か演じたくなってきた。やるからには若い連中に負けるわけにはいかない。そして復活した。今の時代は人を教える、若い人を教えることが面倒であるし、嫌になってきており、自分自身にとっても厳しい。然し、若い人との会話、接触からなにか蘇るものがあるのかなあと思われる。仲代氏の話聞きながらふつふつと思った。無名塾は大根役者ばかりでなく役所広司もいる。

仲代氏は若くして中年の危機が来たのであるが、一般的に見て中年の危機は何なのかと無着正恭氏(1927年生)に聞きに行った。「やまびこ学校」の著者、子供電話相談室をしていた人で、教育者で今では僧侶でもある。「退職して会社から離れると支えるものがなくなりさびしいがどうしてだろうか？」と質問すると、「人間の欲望は三つある。食欲：食べられなくなると死

ぬ。性欲：若い子、綺麗な子を見ると手を出したくなる。性欲がなくなると死ぬ。私は殆ど死にかかっている。群れる欲。群れられなくなると片っ端から死んでいく。』欲望をコントロールできるのが真の人間である、と説明された。「欲望はどうコントロールすればよいのか？」とお尋ねしたら、「世の中には戒と律がある。会社という組織に入っていると自ずと集団的に律されるものがあり、それに依存している。辞めると一人ぼっちになり周りからコントロールしてくれなくなる。すると朝から酒を飲む。いいかげんなことをするでしょう。そこで他人によってコントロールされるのではなく、自らコントロールすることを戒という。戒を自ら作り上げなければならぬ。」と懇々と説経された。僧侶であるから当然であろうが、後で帰って調べてみたら仏教では五つの戒がある。コントロールすることを作れと、いたるところに書いてある。殺生するな、ものを盗むな、等お釈迦様が言っている。大酒は飲むな、嘘をつくなど幾つかコントロールする必要があると自ら戒めている。いずれにしる戒めは守れと感じた。

なだいなだ氏(1929年生)精神科医を訪問。「人間は自らを律することはできるのか。」とお聞きした。「自分の意思で生きているというのは錯覚である。大海を思うように進まないヨットが逆風に遮られながらなんとか前に進むのが人生なのだ。ずっと前に進めるのは例外中の例外で、大概の人は自ら律する強い意思を持つという抽象的なことはおよそ無理である。意地を張る。地べたに這いずり回るようなものである。あいつには負けたくない。これだけは何とかするでもよい。意地を張っていくことしかできない。」と話された。これは非常に分りやすい。一

つぐらいなら意地を張れそうだ。「予てから思っていたが、自分のことを好きになれますか？」と質問したら、「誰だって好きになれない。しかし自分しかないのだから受け入れざるを得ない。ただ受け入れ方の問題であって余裕を持って受け入れなさい。」と言われる。「有名なクリニックを作ってお金持ちだけを診てお金を稼いだら。」と友人には言われるが、「そんな病院など経営できる訳がない。」と意地になって抗弁している。だけど、「お金は欲しいと思わないのか、ほしいと思うよ。」と自問自答し、時には「おまえもばかだねー、意地を張ってそうしないなんて。」と口に出していうので、自分自身病人に間違えられると笑っておられた。いずれにしる自分の欠点なり、矛盾なり、葛藤なりを口に出して余裕をもって言えるようになると、あるがままの自分を受け入れられるようになる、と非常に分りやすい話であった。

大人になって皆転機を迎えている。私は旧制高校のことは知らないがその頃の人は哲学や、宗教を論じたり、何か人生というものを考えてきている。我々の時代になると受験勉強はそれなりにやってきたが、一時、実存主義、マルキシズム等チラッと眺めて見たがたいしたことも考えないですっと社会の中へ入ってきた。すると、ろくにモノも考えず哲学とか宗教に直面しないで会社に入り、仕事をやって、会社教みたいな宗教に染まってきて定年を迎える頃になると困ってしまう。「これは結局若い頃勉強してこなかったツケなのでしょうね。」とお聞きしたら、なだ氏は「早いか遅いかは分らないが、早け



ればよいというものでもないし、会社にいれば人に言われるようにやってあげばよいのであって、それが会社を辞めれば自分で全部決めなければならない。とりわけ大きな会社、官僚もしかりだが競争をしない失敗、言いかえれば失敗しないような競争であり、たいした挫折も経験していない。ところがある時自分で自分の人生を選択しなければならないことがでてくる。早いか遅いかは分らないが、諦めてそれを受け入れざるを得ない。ただこれだけは言える。『不安を楽しめるようにならないと自由は楽しめませんよ。』と言われた時は精神科医の鋭い目で話されていた。

次に進藤兼人氏(1912年生)に聞く。「人は年を取ると悟るのでしょうか?」とお聞きしたら「馬鹿いうんじゃない。悟れるはずがない。あなたは年寄りをどう思っているか知らないが、自分はまだ若い頃、老人は笠智衆みたいな顔をして善人で孫の顔を見て、盆栽をして平和主義者だと思っていた。自分が年を取って見るとこれが嘘であるということがよく分った。年寄りというものは先ず深い絶望感がある。俺は一体今まで何をやってきたのかという絶望感がある。この先何ができるのかという焦燥感がある。それから人に裏切られてきた悔恨がある。そういうものの塊であり笠智衆なんかはいない。自分が年を取って初めて分る。悟なんて有り得ない。悟というけど金がないと悟れない。愛人もいないと悟れる訳がない。」と語る。

今までの人達のお話を聞いておぼろげながら老後とはこんなものかなあとイメージができてくる。

「第2の人生について」

「第2の人生はありうる」という小倉昌男氏(1920年生)は宅急便の成功者である。三越のご用商人から宅配会社への大変貌をとげた方で

ある。そんな小倉氏はヤマト福祉財団をつくりあげた。なんでこんなことを始めたかと問うと、身障者は働く場所がなく可愛そうだからだと。公共施設として全国には身障者のための小さな作業場が7,500ヵ所あるそうだが障害者の月給は月に1万円ですごく少ない。普通の職員は並の給与を受けている。これは不公平であり働く場を供給するべきである。小規模企業所パワーアップセミナーを開き金儲けを教えた。金は汚いというが金儲けはよいことだ。福祉にも金がかかる。仕事をして金儲けをすることが必要である。しかし現実には簡単にはできない。そこで小倉氏は銀座に身障者が働くスワンペーカーリーを作った。パンは身障者が作るが、誰が作っているのか買いに来る人には分らない。美味しいパンの作り方は広島のパン屋アンデルセンの社長に教えてもらって作った。そのペーカーリーの出来た時に取材をしたのでそれ以後のことは分らないが、色々やっていると思われる。小倉氏も障害者も仕事をすることが人生の生きがいなのである。働くことによって社会と繋がっている。相手を喜ばすことが出来るし自分の喜びも広がっていく。

福祉の話では、宮城まり子氏(1927年生)についてである。脳性麻痺、肢体不自由、環境に恵まれない子供達を収容している静岡の掛川市にあるあの「ねむの木学園」をおやりになっている。50人ほどの児童がいる。このほかに高齢者もいる。職員は95人で賄っている。もともとは浜岡原発の近くにあったが原発が5号まで建設され、長崎の原爆を経験されていることもあり移転した。文学館、養護施設もある、ひとつの村である。自宅は抵当に入れ建設資金7億円をかけた。死んだら自宅を処分して支払う。国の援助と私学助成金と寄付でまかなっている。何で始めたか。かの有名な歌「ガード下の靴磨き」で大金が入り、当時主婦がアルバイトで1個作って何

十銭しかない時代であり、内職をしている人に申し訳ない気がした。福祉のためと思ったわけでもなく、可愛そうだからと思ったから始めた。そこで絵を描かせた。あの谷口六郎が世界的に素晴らしい絵だと絶賛した。その他、障害者が働くための喫茶店、小間物屋、毛糸屋、染物屋を始め、障害者の仕事が欲しいと手探りでやっている。歌手は引退したのですかと聞いたらひどく叱られ、「そんなことはない。引退興業は宝塚で行なう。」といわれた。年末は歌番組が多いがいっこうに声がかからないと息巻いておられた。二足の草鞋を履いているつもりである。

宮城氏は第2の人生といえる。新藤氏は第2の人生はない。第1の人生の延長である。毎日シナリオを書いている。映画も作っているが儲からない。シナリオライターでは飯は食えない。それでもしぶとく書いている。音羽さんが生きていた時は鉛筆を削っていただきそれを使っていた。今はおられないがそれでも書いている。これは意地であり情熱である。第1の人生をやってきて何も無いということはない。自分は仕事をしてきた。それによって結婚し、家庭を持ち、子供をつくった。実績があるではないか。そう思えば惨めにならないで済むではないか。

第2の人生をふわっとカバーする話をする。先ほど触れた掘田氏は57才で検察庁を退官。その後さわやか福祉事業団の理事長になる。サラリーマンとして自分を振り返って人生は第1も退官後もあまり区別して考えることはしない。どうしてでしょうかとお尋ねすると、「考えるのが億劫。現役の時は、仕事は楽しいし競争もあるかも知れないがゲームと思えばよい。一方そこから離れて考えることは億劫である。考えたところで面白いかどうか分らない。船から下りて1人で泳ぐという話であるから、泳げるかどうか分らない。海の温度も分らない。だから考える

のは嫌なんだ。」と。

いろいろの人が勤めを終えて暫らくすると地獄が始まる。パッチは取れたけれどもプライドは取れない。ハローワークへ行ってもプライドにかなう仕事はない。奥さんはじゃまにする。そこから地獄が始まる。さわやか福祉事業団にボランティアをやりたいと来る人に始めに「好きなことは何ですかとお尋ねすると、好きなことはないのご返事。2番目にあなたが会社の中で養ってきた特技というものがあるでしょう。なくても出来ることがあるでしょう。それを書いて御覧なさい。ひとつやふたつは必ずあります。3番目に思春期時になりたいと思ったもの、やりたかったことがあるでしょう。それを思い起こして御覧なさい。」と言われ、それが見つかるとはまるこのこと。

さわやか福祉事業団は常勤が60名いる。助け合い運動の仕組み作りとか、学校、公共団体のボランティア活動普及の手伝い、その他現在手がけている事業は25ほどある。その他にリーダー養成講座を年50回開催している。それを手伝うインストラクターが全国に100人ほどいる。先ほどの三つのアドバイスから政治家は講演とか、役員をやっていた人はそれなりの仕事を、もの書きは機関紙の編集をと適当に割り振っている由。私がお聞きしたら、「電話一本下さい。あなたの適するものを紹介します。」とのこと。今私が住んでいる流山市にも支部があって紹介していただけ。手探りでいろいろ考えていかなければならないでしょうと掘田氏の話はそんなことでした。「ただ、肩書を失ってもプライドは失っていないので部長の職はないかと頑張られても、そう言うのが困る。そう言わなくなるには、おおよそ2年ぐらいいかかる。」とのことでした。

男は難しい。女は融通無碍で適応力があり、とてもかなわないと思います。

平成17年度 日工販新役員

協会役職	会社名	役職名	氏名
会長	(株)兼松KGK	取締役社長	石川 正 治
副会長	植田機械(株)	取締役会長	植田 精 一
副会長	(株)トミタ	取締役社長	富田 薫
副会長	三栄商事(株)	取締役社長	後藤 正 憲
専務理事			荘 司 博 章
理 事	伊藤忠メカトロニクス(株)	取締役社長	尾 瀬 俊 憲
理 事	(株)エムエムケー	取締役社長	小 川 慎 一
理 事	住友商事マシネックス(株)	産業機械部副部長	安 達 徹
理 事	(株)トーメンテクノソリューションズ	取締役社長	田 尻 哲 男
理 事	東京金子機械(株)	取締役社長	金 子 静 二
理 事	常盤産業(株)	取締役社長	佐 山 博
理 事	トッキ・インダストリーズ(株)	取締役社長	津 上 健 一
理 事	三菱商事テクノス(株)	取締役社長	徳 田 誠 一
理 事	ユアサ商事(株) 取締役執行役員工業マーケティング事業本部長		佐 藤 悦 郎
理 事	米沢工機(株)	取締役社長	青 木 俊 一
理 事	(株) 井 高	取締役社長	高 田 研 至
理 事	サンコー商事(株)	取締役社長	井 内 敬
理 事	三立興産(株)	取締役社長	萩 原 宏 明
理 事	(株) 東 陽	取締役社長	羽 賀 昭 雄
理 事	(株) 不 二	取締役社長	池 浦 捷 行
理 事	山下機械(株)	取締役社長	山 下 隆 蔵
理 事	赤澤機械(株)	取締役社長	赤 澤 正 道
理 事	伊吹産業(株)	取締役社長	横 幕 武 夫
理 事	宮脇機械プラント(株)	取締役社長	宮 脇 隆一郎
理 事	(株) 山 善	常務執行役員機械統括部長	端 武 仁
監 事	(株) テツカ	取締役社長	三 橋 誠
監 事	下野機械(株)	取締役社長	下 野 信 重
監 事	桜井機械(株)	取締役社長	櫻 井 泰 朗

平成17年度 委員会委員長

委員会	会社名	役職名	氏名
政策委員会	(株)兼松KGK	取締役社長	石川 正治
業界対策委員会	(株)兼松KGK	取締役社長	石川 正治
総務委員会	(株) 東陽	取締役社長	羽賀 昭雄
教育委員会	植田機械(株)	取締役会長	植田 精一
調査広報委員会	(株)トーマンテクノソリューションズ	取締役社長	田尻 哲男
インターネット委員会	三栄商事(株)	取締役社長	後藤 正憲
国際委員会	(株)トミタ	取締役社長	富田 薫
東部地区委員会	伊藤忠メカトロニクス(株)	取締役社長	尾瀬 俊憲
中部地区委員会	サンコー商事(株)	取締役社長	井内 敬
西部地区委員会	赤澤機械(株)	取締役社長	赤澤 正道

会長



石川 正治

副会長兼教育委員長



植田 精一

副会長兼国際委員長



富田 薫

副会長兼インターネット委員長



後藤 正憲

総務委員長



羽賀 昭雄

調査広報委員長



田尻 哲男

東部地区委員長



尾瀬 俊憲

中部地区委員長



井内 敬

西部地区委員長



赤澤 正道

専務理事



莊 司 博 章

懇親パーティー

平成 17 年 6 月 8 日(水) 16:20 ~ 18:00 八重洲富士屋ホテル 2 階「櫻の間」

日工販第36回通常総会、特別講演会終了後、ご来賓及び会員総勢162名の出席のもと懇親パーティーが開催された。



石川会長より、総会の報告及び開会の挨拶があり、次いで経済産業省製造産業局産業機械課課長小宮義則氏並びに(社)日本工作機械工業会副会長牧野二郎氏より来賓のご

挨拶を賜った。続いて、本年賀詞会以降の入会会員5社の紹介があり、出席された西川産業(株)取締役垣尾勉氏、(株)ヤマモリ常務取締役清原武氏、エヌ・ティ・ティ・リース(株)法人営業推進部部長肝付禎仁氏が紹介された。その後、日本工作機械輸入協会会長近野通明氏のご発声で一同乾杯し、懇談が繰り広げられ、定刻に植田副会長の一本締めで中締めが行われた。



来賓ご挨拶要旨：

経済産業省製造産業局産業機械課課長
小宮 義 則 様

折角の機会ですので一言ご挨拶申し上げたいと思います。3点ばかり申し上げます。

まず景気のからみにつ

いて、今年の賀詞交歓の場で為替レートのリスクがあり得ると申し上げたが、幸ながらブッシュ政権が財政政策と構造改革をしっかりと明言した結果、ドルの独歩安はなくなっている。然し、中国が人民元を何時どの程度切り上げするのか気になるところである。ご存知のように人民元のレート問題は米中間の政治問題になっている。

実は私が見るところあまりドラステックな大きなレートの変動はなさそうに見受けられる。新聞にも色々報道されているが、年度内に5%程度の切り上げはあっても、中国の国内政治の問題もあり、いきなりフロート制に移行すること



はないと思う。従って為替レートは気になるが、我国ヘインパクトを与えとは思っていないし、安心している。

もう一つ気になるのは鋼材価格である。鋼材といっても普通鋼と特殊鋼の問題で、普通鋼は皆さんにはあまり関係はないがここに来て大分増産され緩和されてきた。残念ながら特殊鋼の方は一部品目でタイト感が続いている。ご存知のように、特殊鋼の在庫は歴史的に低水準になっていて、欲しい時に欲しい品種が入らない状況になっている。特殊鋼メーカーも増産に努めているがそれ以上に需要が多い実情である。従ってなかなかこのタイト感は直ぐには納まりそうもない。

ただし、8月頃になると需給バランスは緩和されると思われる。何れにしろ、鋼材価格の上昇、品不足はとどのつまり中国が買い込む、中国の景気がよいということであり、プラス・マイナスを考えると全体ではプラスになる。鋼材価格が上がっても中国経済が世界を引っ張っている所以日本経済との関係ではプラスに働くと思っている。

先ほど会長より今年も先行きは明るいとお話があったが、釈迦に説法であるが、我国の自動車産業が非常に強気の設備投資をしており海外工場向けにも工作機械を買う。こういった状態で工作機械の販売も堅調に推移すると楽観視している。

次ぎに税制の件が2点ある。

エネ革税制で高付加工機が対象になっているが、残念ながらまだ完全に周知されていないようで、あまり利用されていないのが実情である。本日お集まりの方々には工作機械の販売に携わる方々であるが、是非販売される時、複合加工機を購入されるとおまけがついてきますよとっていただきたい。そうすれば経済産業省も

立法に苦労した甲斐があったと判断する次第である。

もう一つは日工会より要請されていた残存簿価についてであるが、今度の税制改正については真剣に取り組むということで省内での意思統一をしている。どんなユーザーにどんなニーズがあるか色々調べていきたい。税務署関係の人はアンケート調査を見て工作機械は20年使われているから残存簿価はゼロにしても耐用年数は延ばしてしまえと考える向きもある。これは防がないと水の泡になってしまう。我々としては、ここは皆様の商売に繋がるかたちで、且つ、ユーザーの利便に供するかたちで税制を考えて行こうと思っている。よろしくご協力をお願いする。

3番目は、先ほどのものづくりの話が出たが、昨年新産業創造戦略をつくり、今年はその改訂版を作っている最中である。新聞で時々報道されているが、新戦略ではサポーターイングインダストリー対策を行なう。具体的には自動車、情報機器にとっての基盤産業を支える産業政策を行なう。狭義ではベアリング、工作機器もしくは歯車、金型という工作機械の部品もしくは工作機械を使って作る産業が中心になるが、勿論工作機械そのものも一種のサポーターイングインダストリーとして支えているのだということを前面に出したかたちのものに政策転換を図っていく。また何らかのかたちで皆様に説明の機会があると思うし、逆に現場のニーズをお伺いすることがあると思うし、逆に関心があると思う。今後ともこれらについて意見交換が出来るとありがたいと思っている。

工作機械の販売がますます伸びることを私もせつに念願している。業界の発展を祈念するとともに皆様のご健勝をお祈りし私のご挨拶の言葉とさせていただきます。

(社)日本工作機械工業会 副会長
牧野 二郎 様

第36回通常総会おめでとうございます。本来ですと中村新会長がここに参上しご挨拶を申し上げるべきですが、行事が重なっており代わりに私が参上致しました。



先ほど、石川会長がお話しておりますように工作機械業界も受注が10数ヵ月前年比を超えて好調な状態になっている。これもひとえに皆様方のお陰でありあらためてお礼申し上げます。

納期の件では、急に生産量が増えたために色々行き届かない点があり営業活動に支障になっていると思います。会員を代表しまして一言お詫び申し上げます。これからどうぞご指導いただきたくと存じます。

先ほど石川会長がきわめて簡明にして分りやすく数字を含めて日工会の事をご説明いただきましたので、用意した原稿を読上げるのは止めることにしました。

日工会と日工販、永年製販懇談会を色々なかたちで続けており、協力体制でやっています。

経済産業省には、今までも随分ご尽力いただいたのですが、小宮産業機械課長のお話のように今年は色々取り組んでいただけるようで、残存簿価については我々の永年の悲願でありますので是非お願いします。ただ、所轄官庁は財務省であり、交渉は難関ではあろうかと存じますが大いに頑張ってくださいと存じます。この件に関しては日工会のみでは如何ともしがたく、是非日工販のご協力もお願い申し上げます所存です。

中村新会長は市場委員長を始め色々こなされた方で販売についても詳しい方です。日工販と

日本工作機械輸入協会 会長
近野 通明 様

当輸入協会は50周年記念をこの6月3日に行ないまして大変多くの皆様にお出でいただきました。壇上をお借りしましてありがたくお礼申し上げます。



先ほど、石川会長から今年は去年より非常によい年であると言われましたが、この4月の受注は1,171億円で12ヵ月連続1,000億円を超えたこととなります。日工会の中村会長は私どもの50周年記念の祝辞では今年受注目標1兆1,500億円を修正するとは言われなかったが、このところの受注推移を見ている限り、何れ1兆3,000億円ぐらいの上方修正がでてくるという気がします。これもひとえにここにおいでの日工販の皆様のこれからの頑張りにかかっていますので、是非よい数字を残せるようお願いいたします。

日工販の益々のご発展とご列席の皆様のご多幸、ご健勝を祈念致しまして乾杯と致します。ご唱和をお願い致します。乾杯！



カンパいの瞬間！！

の関係も強く持ちまして永年の悲願を達成したいと考えています。

これからも今まで以上に日工会についてご指導、ご鞭撻をいただくようあらためてお願い申し上げます。本日はおめでとうございます。

半藤一利 著「昭和史 1926 1945」を読んで



大石機械(株)
代表取締役
大石直良

たまに本屋へ行くと、本に巻きつけてある宣伝用の帯のコピーに目が行きやすく、思わず手に取り、買ってしまうことがあります。この本もそうでした。私の拙い感想よりも、宣伝コピーがこの本について核心をついているので、そのいくつかを書き出してみると、「日本人は、なぜ戦争をするのか」、「この(教訓の)ひとつひとつが、今の私たちにも進むべき道を明らかにしめています。過去を究めてこそ未来が見えてくる。」、「昭和史を知らない私たちにぴったりの教科書といえます。」

このところ、日本は、中国や韓国から歴史問題を突きつけられており、その対処に苦慮しています。歴史問題にからむ中国での反日デモ、日本の国連常任理事国入りへの反対運動、歴史教科書問題、中・韓との領土問題(竹島・尖閣諸島等)、北朝鮮の核開発問題・拉致問題、6カ国協議など問題は山積しています。中国や韓国は、自分たちの立場からの歴史観による歴史を持ち、歴史教科書等により子供を教育し、そのような教育を受けた子供が大人になっていきます。それに比べると、わが日本の歴史教育は、どうでしょうか。特に昭和史についての教育は、意図してか、意図せざるか分かりませんが、非常に乏しいものです。中国や韓国の人たちと対等に歴史について話し合いができるためにも、日本人による日本人のための歴史(特に近代史)の教科書が必要になります。そのようなニーズを満たしてくれるのが、まさに、この本でありましょう。

5百ページを超える比較的厚い本ですが、口語体で書かれており、学校の授業を聴いているようでもあり、大変読みやすくなっています。また、地図や写真も効果的に使われており、理解を手助けしてくれます。5百頁もありますので、詳細にいたるまで事細かに書かれており、情報量の少ない通常の教科書と違いどんな人が、どんな役職で、どのような考えを持って、どのように結果として日本の昭和史に関わってきたのが面々と綴られております。歴史と言うものは、本当にいろんな人が様ように絡み合って、その結果として作られてきたものであると同時に、偶発的なことや偶然が重なり合い、それらが互いに影響を受けつつ形成されていくものと実感させられます。

ゴルフと同様に歴史においても「たら」・「れば」は禁物ですが、この本を読むとどうしても、あの時どうしていたらとか、ああしていれば、と歯痒く思わざるをえません。関東軍の独断専行をコントロールできていればとか、日独伊三国同盟を締結していなければとか、ドイツの力を過信しなければとか、米国に対する宣戦布告が遅れていなければとか、もう少し早く終戦にしていたらとか、もう少し当時の政治・軍事の日本のリーダーが敵国のそれに比べ優れていたらとか、数え上げたらきりがありません。いまさら、なぜあのような結末になったのかと後悔しても始まりませんが、この歴史・事実を改めて重く受け止め、今後に生かさなければと思います。この本で著者は、最後に「歴史は決して学ばなければ教えてくれない。」と述べています。蓋し名言かと思えます。

この本を読んでいる最中に重要だと思ったことを羅列して、終わりにします。今の日本人は、国家意識が希薄すぎることに、日本は、国としての正統なビジョンを持つことに、日本は、国家として海外の情報収集能力を高めることに、普通の国は、自国のみを国益により動くもので、日本もそのことを自覚すべきこと、一般の人が政治について、もっと関心をしめし、選挙の投票率を上げ政治を監視すべきこと、マスコミの質をあげることに。

分かりやすい話題の技術

No.80

マシニングセンタによる 金型の曲面形状測定機能について



㈱牧野フライス製作所
先行技術開発部 マネージャ
森 規雄

1. はじめに

今回ご紹介する「曲面形状測定機能」は、マシニングセンタで金型を加工したあとに、マシニングセンタ自身で三次元の自由曲面形状を測定する機能です。ワーク測定用のタッチプローブを主軸に装着して機上測定し、金型の加工精度の確認を行ないます。昨年秋の東京国際見本市(JIMTOF)で発表し、注目を集めている技術です。

これまで、加工したワークをテーブルから取り外し、三次元測定室に持ち込むのが一般的でしたが、「曲面形状測定機能」があれば加工終了後にその場で手軽に精度確認ができます。三次元測定器の順番待ちがなく、とても便利な機能です。

2. 開発の背景

「曲面形状測定機能」には、金型メーカーが直面しているいくつかの問題の解決に繋がるとの期待感があります。

自動車産業は生産拠点の現地化、家電産業はコストダウンのために海外シフトが進み、それ

とともに日本製の金型も世界中に流通し始めています。そのため、金型メーカーにとっては海外での金型メンテナンスが重要な課題になっています。ベテランのエンジニアが遠く海外へ出向いて部品交換や調整、修正をしなくても済むように、金型部品加工の高精度化と、その精度の数値化(データ化)が必要です。

金型の納期短縮という点では、すでに現状で納期に対する工数的な余裕はほとんどありません。そこで、ミスや歩留まりを最小限に抑えることがカギになっています。金型部品は複数の加工工程を渡り歩くため、工程間の受け渡しをいかにスムーズにするかが重要です。そのためには、加工不良を次工程に流さないように、工程ごとの精度保証が必要です。(図1)

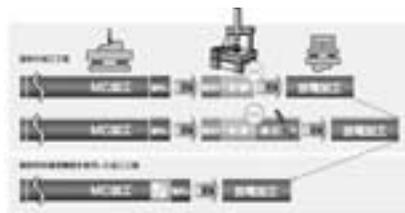


図1

3. 三次元測定機による測定

ISO9000取得企業の増加も追い風となり、金型メーカーには三次元測定機を導入し、金型部品の精度を測定し数値化するケースが増えていきます。しかし、実際の金型製造現場ではさまざまな部品の加工が同時進行し、時には三次元測定の工程に順番待ち部品が集中してスムーズな仕事の流れを妨げることもあるようです。

また、三次元測定機上で加工不良が発覚しても、一度外してしまったワークの再加工は極めて困難です。さらに、プログラマ、加工機オペレータ、測定機オペレータと分業化されますから、この間の意思疎通が正確でないと思われぬトラブルが発生する可能性があります。

「曲面形状測定機能」は、マシニングセンタ自身が加工後のワークを測定するため、ワークを取り外す前に加工不良などの問題点を発見することができます。したがって、状況によっては再加工が可能です。また、CNC画面上で対話形式により測定プログラムを作成しますので、加工機オペレータ自らの操作で精度を測定することができます。

4. 「曲面形状測定機能」について

具体的に「曲面形状測定機能」の紹介を進めたいと思います。この機能の目的を整理するとつぎのようになります。

- 1) パーティング、押し切り、スライド、入れ子などの精度を確認し、金型の組立工程での「合わせ」や「はめ合い」における手直し作業を省きたい。
- 2) 成形品の高精度化にともない、金型の製品部の形状精度を把握したい。
- 3) 次工程に不良品(精度不良、加工忘れ、加工間違い)を流さないように、加工機から取り外す前に精度を確認したい。
- 4) 金型部品の品質記録を残したい。

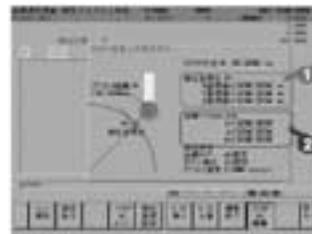


図 2



図 3

実際の機能はつぎのとおりです。

- 1) 対話形式による簡単プログラム
測定目標点、測定方法など最小限の情報を入力することで測定プログラムを簡単に作成します。(図2)
- 2) 法線方向アプローチによる高精度測定
高精度に測定するために、測定ポイントに対して法線方向からアプローチします。(図3)
法線ベクトルの指令方法は2通りあります。
CAMなどで求めたベクトルを入力する方法。
測定ポイント周辺の任意3点を自動計測して傾斜面を求め、そこから法線ベクトルを自動演算する方法。(特許取得済み)(図4)



図 4

3) 測定結果の表示

測定結果をリスト表示、グラフ表示することができます。(図5)



図5



図6

4) 測定結果の出力

測定結果をパソコン、プリンタに出力できません。

5) キャリブレーション

付属する球を使用し、多点のキャリブレーションを自動的に行いません。(特許取得済み)(図6)

6) 測定精度

実測値で±5～10μm。ただし、機上測定のため、加工室内の温度や加工終了から測定までのインターバル、切粉やクーラントなどの影響を受ける場合があります。

5.まとめ

「曲面形状測定機能」を導入することで、経験や勘に頼りがちの金型加工の世界に、加工ごとの精度保証と数値化という新しい考えが生まれます。比較的安い投資で、マシニングセンタに測定という付加価値をもたらす機能として、ぜひ普及を図りたいと思います。

SE教育

日工販SE合格者 第124回発表

今回は6月の合格者7名です。

認定No.	会社名	合格者名
05-14-1689	㈱兼松 KGK	森田圭祐
05-14-1690	㈱共和工機	山田雅人
05-14-1691	㈱東陽	尾藤則雄
05-14-1692	浜松貿易㈱	石津匡賢
05-14-1693	ワシノ商事㈱	吉田忠義
05-14-1694	植田機械㈱	土橋忠良
05-14-1695	UFJセントラルリース㈱	安藤裕規

更新研修合格者 第76回発表

今回は6月の合格者2名です。

認定No.	会社名	合格者名
05-8R-1186	三栄商事㈱	荻野雅也
05-9R-1273	サンコー商事㈱	永藤望

「マイ設備投資？ 中止！」



赤澤機械(株)
取締役社長
赤澤正道

平成15年度より日工販西部地区委員長を務めさせて頂いておりましたが、皆様のご協力で2年間の任期を無事終了できまして有難うございました。

このたび、引き続き本年度も西部地区委員長を「続投」することにと成りましたので今後もご指導の程宜しくお願い致します。

扨、今回日工販より寄稿の依頼が有り何を書こうかと思いましたが、以前に私の趣味のゴルフについて寄稿した事を思い出し前回の続報として書かせて頂こうと思います。

数年前に、ハンデがシングルのゴルフ仲間にゴルフの上達のアドバイスを求めた処、彼曰く、「最近のゴルフクラブはやさしく打てるし性能が良くなっているので最新のクラブに替えるだけでスコアアップ、ハンデアップ間違いなし。『ゴルフは道具だ』」とアドバイスされました。

事実そのシングルプレイヤーの方も最新ドライバーに替えたとたん飛距離が10～15ヤードも伸びたそうで、「君も職業柄工場に最新の工作機械の設備投資を勤めるなら自分自身も最新のゴルフ道具に設備投資をしたら。」と言われ、それからはゴルフショップの専門家やゴルフ仲間のアドバイスを受けてN社のチタンドライバー、Y社のチタンとカーボンの複合素材のドライバー、M社の中空アイアン等々様々なクラブを新製品が出る度にとっかえひっかえ買い換えて暫らくプレーしていましたが一向にスコアは変化無し、ハンデも上がらずの状態が続きました。

そこである時にふと気が付きました。何回スウィングしてもスイートスポット(芯)で打つことが出来る反復精度の高いスウィングのプレーヤーは最新のクラブの性能をフルに引き出せるが、スウィング精度の悪いプレーヤーはスイートスポットで打つ事が出来ず、最新のクラブの性能をフルに引き出せない、まさしく猫に小判状態であると思いました。例えて言えば全く同じ最新鋭の工作機械もオペレーターの熟練度によって精度や生産効率に大きな差が出るのと全く同じで、つまり自分には過剰設備で、宝の持ち腐れ状態に成っている事に気が付きました。

そう言う訳で、私の本業の工作機械業界は本年度旺盛な設備投資に支えられて活況を呈していますが、私の趣味のゴルフには、本年度の「マイ設備投資」は一切中止(凍結)にしたいと思います。「マイ設備投資」に代り教育研修費(ゴルフ練習代、レッスン代)を増額させる方針で1年間頑張っって研修して見るつもりです。その結果は乞うご期待！

また、機会に恵まれましたらご報告させて頂きます。



リレー随筆



Part 2

「成長とは」



株山 善
東日本営業本部 機械部
白井 一彰

社会人になってはや1年と3ヵ月。あっという間に過ぎてしまいました。ようやく仕事には慣れてきましたが、未だに会社の上司や先輩、お取引先の皆様方から色々のご指導頂き、日々勉強させて頂いています。

そんな毎日の中で、最近よく考えるのは、「成長する」とはどういうことか？ということです。1年間社会人として働いてきて、入社時に比べれば、多少商品知識も身に付きましたし、こなしきれなかった業務もなんとかこなせるようになってきました。ですが、それは結局表面的なことで、まだまだ未熟な過程であり根本的に人として成長したとは言えないのではないか、と思うようになりました。

以前読んだ本の中に、「芋虫が葉っぱを食べて大きくなるのも成長だろうが、本当の意味での成長とは言えない。蛹になり蝶に生まれ変わった時、初めて成長したと言えるのだ。」という内容の文章があり、大変印象に残った記憶があります。自分を大きく変えるきっかけ、出会いを通じて、何かを吸収してその都度人は変わるのではないのでしょうか。また、そのチャンスを逃さないように、常にアンテナを張り巡らせて、積極的にそのような場に飛び込んでゆく姿勢こそが大切なのだと思います。そんなきっかけについて、最近考えさせられる事があったので、そのことについて述べさせていただきます。

今年に入ってから、毎週土曜日いた学生時代にやってバスケットボールを再開したのですが、なかなか学生の頃のように思うようにプレーできません。しかも、プレー時間の半分も過ぎると、息も絶え絶えになり、まともに歩く事もできません。そんな状態ですから、チームの足を引っ張りばなしです。

そんなある日の練習中、私がいまにもフラフラでみっともないプレーをするので、同じチームの先輩がみるみる不機嫌になり、「リバウンドをちゃんと取れ！」「今のパスとれるだろう！」と、高校時代の部活の顧問のように私を叱咤しました。「こんなにしんどいのに、無茶言って...。」と、反発心がメラメラと燃え上がり、「やればいいんだろう。」とばかりに意地をはり、しんどいくせにやたらと走り回り、速攻やリバウンドにどんどん絡んでゆき、その結果今までで一番活躍できました。すると、次の試合で元の動きに戻ると「また手を抜きやがって」と思われそうでしたし、試合後に皆から褒められて気分がよかったこともあり、ヒイヒイいいながらも必死で走り回り、それなりのプレーができました。

特別急にうまくなったわけではありませんが、ひとつのきっかけで今までの普通のプレーが手抜きのプレーに、一生懸命やったプレーが普通のプレーになってしまったということで、それ以来毎週死にそうなる思いで必死にプレーしています。ですが、そのことで結果が出れば、周りから見ても「上達したな。」あるいは、「成長したな。」と映るかもしれません。

工作機械と私



(株)セイロジャパン
システム部 大阪営業所長
稲 福 肇

弊社は現在、CAD/CAMが主要営業品目になっておりますが、ものづくりを支援するという仕事に携わるうえで、工作機械の持つ重要性は些かも変わりません。

私が入社した当初は、工作機械に関わる自動化・省力化システムの営業を担当していたのですが、当然のことながら初めの内は、お客様に提案することより教えていただく一方でした。当時を振り返りますと、経験不足の自分を門前払いにするのではなく、「少し教育してやるから、成長して役に立つようになったら、そのときは恩返し下さい。」というスタンスのお客様に恵まれていたように思います。

機械や加工の基本的なことが分かり始めて、曲がりなりに提案書や見積書を作成できるようになった頃、ある自動車関連のお客様から自動化システムの依頼を受け、仕様打合わせから搬入まで何度も工場に足を運びました。スケジュールの打合わせで訪問したある日のこと、間近に迫った「勤労感謝の日」のことが話題に上り、現場担当者の方は休日出勤の予定だとおっしゃいました。私は、「勤労感謝の日は、普段頑張って働いている方に、どうぞ休んでくださいという日じゃないんですか？」と冗談半分に言ってしまいました。するとその方は、「勤労感謝の日は、仕事ができるということに感謝する日だ。」とおっしゃったのです。この言葉は、仕事の何たるかをあまり考えることのない若造の私には、強い印象として残りました。同時に、この方が自分の仕事に、誇りと責任感を持っておられることが伝わってきました。

日本のものづくりは、非常に高い技術と信頼によって支えられていますが、「もっとよいものを作りたい。」、「もっと質の高いものを作りたい。」という現場の方の情熱に触れるたびに、私たちが提供するシステムやサービスも、それに応えるものにしなければと感じています。

先日、サッカー日本代表がワールドカップ最終予選突破を決めましたが、ジーコ監督は「自分は日本のサッカーに恩返しをしたい。」とコメントしていました。

ブラジル人の一人の「恩返し」が、日本中のファンを熱狂させることになりました。「恩返し」が連鎖することで、大きな発展が生まれ、それが伝統となり、歴史が築かれていくのかなあと感じました。

先人の経験や伝統を相続し、その土台のうえでさらにいいものを作るという真摯な繰り返しから、新しい発見をしながら、業界の今があるのだと思います。工作機械に込められた技術も、その象徴の一つではないでしょうか。

私もこの業界に携わることで多くのことを学び、有形・無形の恩恵に与っています。私の恩返しはまだまだ道半ばですが、受けた恩に自分の感謝の分を足して、お返しできればと考える昨今です。

この様に、自分のあり方を変えてくれるきっかけや出会いは、自分の身近なところにあることを気付かせていただきました。(上記の出来事を通じて、私のあり方が変わったり、大きく成長したとは言えませんが...)

そのことを意識して、一日一日を大切に過ごして行こうと思う今日この頃です。

我が社を語る



西川産業株式会社

西部地区正会員



取締役社長

西川 正一

昭和24年(1949年)6月に「近江商人発祥の地」の一つである滋賀県近江八幡出身の4歳違いの兄弟が大阪市十三にて創業した会社が現在の西川産業株式会社です。今日では「使う人の希望と創る人の誠意の交叉店」を営業基本理念として、大阪府・兵庫県・滋賀県の三府県に事業所を展開し、わが国の国力の根幹を成すモノづくりに携わる企業が仕入先・販売先の両取引先になります。ロボテックマシン(CNC工作機械)、環境機器、FAシステム機器、マテハン機器、メカトロ機器、産業機器、切削・測定・作業工具などの生産財及びCAD/CAM・オフィス機器、工場用品などの販売とそれに附随するサービスを提供する専門商社が西川産業です。グループ会社として昭和59年3月にはヤマザキマザック株式会社と提携して工作機械専売店のマザックニシカワ株式会社を設立し、平成15年4月には上海に機械工具商社としての現地法人 緑碧獅貿易(上海)有限公司を設立しました。西川グループとしてモノづくりに携わる企業に貢献出来ることを目指しております。

社訓：昭和28年制定 明朗誠実たること 常に研究努力すること 礼節を重んずること
経営理念：昭和36年制定 使う人の希望と創る人の誠意の交叉店
営業指針：昭和48年制定 部品からシステムまでトータル効果を流通する
社是：平成7年制定 顧客の役に立つ会社 社会が評価する会社 家族が満足する会社

21世紀になり西川産業は次の世代にパトタッチされました。創業以来半世紀の間に築き上げられてきた伝統、有形無形の財産を継承したわけです。この半世紀の歴史の中で会社経営のそれなりの仕組みも出来上がっている訳ですが、会社のマネジメントシステムの中にISO14001の手法を2002年に、そしてISO9001の手法を2005年に、認証取得と言う形で取り入れております。ISOに共通するPDCAサイクルをしっかりと廻す仕組み、文書による記録と管理、こういったものは従来の西川産業の企業文化の中では確立されていないものです。従来の良いものは残しつつも世界に通用するISOの手法を新しい文化として取り入れ、新しい社風・企業文化を作り上げたいと取り組んでおります。

お得意先になるモノづくりに携わる企業の生産活動に関与しながら、地球環境に配慮した販売活動・物流活動を営む企業でありたい。また優れた品質のサービスおよび商品を提供することによって、お得意先のお役に立ち顧客満足を確保し、よって社会における存在価値を高めていきたいと考えます。社員一同が充実した生活を送ることが出来る企業を目指して全員参画での実行と継続的改善を押し進めていく所存です。

本社：〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-3-27 TEL.06-6308-5641 FAX. 06-6301-4157

第83回 教育委員会

日時：5月24日(火)12:30~15:05
場所：機械工具会館 5階会議室
出席者：植田委員長、委員4名、事務局2名

委員長挨拶：

今回が2年間最後の委員会となる。会長より引き続き委員長に指名されたので、会長再任が総会で承認されれば委員長をお受けすることになる。委員各位も特別な支障がなければ来期もお願いしたい。景気は4月には落ち込むかと予想していたが、好況が推移し、相変わらず自動車は堅調、電機も薄型テレビが7,000万台の累計出荷となる。競争も厳しいが各社切磋琢磨しソニーもサムソンと提携し数年はよいようだ。業界にとって非常に楽しみである。

議事：

- (1)16年度教育事業特別会計報告
専務理事より報告が行われた。
- (2)17年度教育事業特別会計予算案
専務理事より説明があった。
- (3)基礎講座応募状況報告
基礎講座の当日現在の応募総数が123名に達した。
- (4)17年度SE講座・更新研修募集要項検討
基本的に昨年と同じ様式、内容とし、講師変更等による講座内容の一部変更することにし、原案は協会教育事業局で作成することにした。
- (5)基礎講座、SE講座・更新研修集合教育講師一部変更のこと
基礎講座及びSE講座を担当されていた金城氏の逝去にともない、基礎講座「工作機械とは」を(株)牧野フライス製作所常勤監査役渡辺氏に打診し了解を得ている旨専務理事より報告、委員会の承認を得た。SE講座「販売実務・法律知識」の講師については山善社審査部に適任者がいるとのことで、打診することにした。

更新研修2時限目の「これからの機械生産財のマーケティング戦略」、4時限目の「IT革命とFAオープン化の現状と将来展望」に代わり、「有機EL等薄型表示システムとそれらの製造設備について(仮題)」をトッキ(株)社長の津上健一氏に、「工作機械業界の製品・技術開発動向(仮題)」を青山学院大学講師の広田鉦一氏にお願いすることで、委員会の承認を得た。

(6)その他

SE制度運用基準規定改正のこと
専務理事よりSE制度運用基準規定の改定案が提出され、討議の結果承認された。

「運用基準規定改定」

.受講権1.

通信教育「教材受領後3年」を「教材受領後2年」に短縮。

.資格の復活2.

更新研修合格者「資格喪失後1年」を「資格喪失後2年」に延長。

.資格者名簿整理基準4.

「SE資格取得後10年経過し、再更新手続きを行なわなかったものは資格者名簿に「元SE」と表示し、2年を経過したものは名簿から削除する。」を追加。

.海外勤務者の資格有効期限の特例1.

「SE資格者が海外勤務中で資格有効期限内に更新研修を受講できない場合、所属会社よりその旨の届出があり、帰国報告後、最初の更新研修を受講し合格できれば資格は復活できる。この場合、SE資格有効期限後更新研修受講日まで資格者名簿に「元SE」と表示する」を追加。

再更新者への認定証のこと

植田委員長よりベテランにはそれなりの能力、プライドもあり再更新者認定証としてゴールドカード支給をする事により動機付けと励みの象徴となる旨発言あった。討議の結果、何らかの形で報いる方法をとるよう検討項目とした。

次回委員会：

7月26日(火) 12:30~15:00
機械工具会館5階 会議室

工作機械・FA流通動態調査 1

統計1

単位百万円

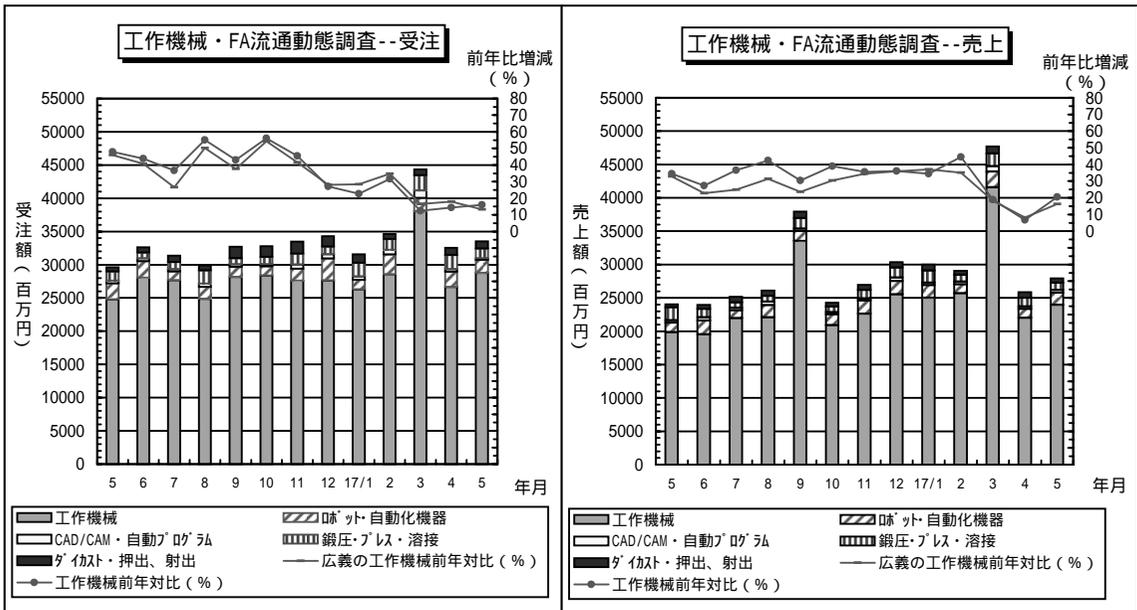
34社合計 調査月次		受 注				売 上					
		17/5	前月比	前年比	17/1-17/5	前年比	17/5	前月比	前年比	17/1-17/5	前年比
広義の 工作機械	工作機械	28,743	7.8%	16.1%	148,269	18.7%	23,964	8.9%	20.6%	138,268	23.6%
	ロボット・自動化機器	1,954	-13.4%	-19.3%	10,595	30.4%	1,833	39.1%	29.8%	8,739	25.2%
	CAD/CAM・自動プログラム	246	-42.9%	-36.4%	3,059	3.1%	386	2.8%	12.6%	2,322	-2.2%
	鍛圧・プレス・溶接	1,478	-29.3%	5.9%	9,484	65.2%	1,104	-16.3%	-43.8%	7,196	-1.4%
	ダイカスト・押出・射出	1,107	-0.1%	74.1%	5,172	40.0%	653	-21.4%	48.4%	4,029	27.1%
小計		33,528	3.0%	13.2%	176,579	21.4%	27,940	8.1%	16.2%	160,554	21.9%
工作機械以外の扱い商品		11,438	-5.8%	28.8%	66,047	22.4%	9,996	10.5%	16.3%	56,038	5.4%
合計		44,966	0.6%	16.8%	242,756	21.5%	37,936	8.6%	16.3%	216,924	17.1%
従業員数		1,228	-0.6%	0.6%							

統計2

単位百万円

32社合計 調査月次		受 注				売 上					
		17/5	前月比	前年比	17/1-17/5	前年比	17/5	前月比	前年比	17/1-17/5	前年比
内訳	直販	24,548	8.1%	29.1%	129,554	29.8%	18,981	6.0%	13.5%	107,315	13.5%
	(内リース)	1,345	-7.7%	-12.7%	8,162	-0.6%	1,331	-14.8%	25.2%	8,529	10.8%
	卸	8,796	-12.2%	3.3%	45,968	12.6%	8,810	16.1%	30.0%	44,112	17.9%
	輸入	233	-21.4%	24.6%	1,071	1.5%	272	-60.9%	-61.6%	2,043	43.3%
	輸出 (内トランスプラント)	4,097	31.4%	23.5%	20,814	11.9%	2,690	0.1%	13.1%	20,510	47.1%
従業員数		965	-0.8%	-0.3%							

注：本調査は会員73社中統計1に関しては35社、統計2に関しては33社の回答を得て集計したものである。
折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
参考までに今月のデータ提供会社総数は45社である。



工作機械業種別受注額（2005年5月）

6月16日発表

(単位：百万円、%)

需要業種	期間	2004年 累計	前年比	2004年 10～12月 累計	2005年 1～3月 累計	前期比	前年 同期比	2005年 1～5月累計	前年 同期比	5月分	前月比	前年 同月比
機械 製造 業	1. 鉄鋼・非鉄金属	8,613	155.0	2,257	2,418	107.1	124.8	5,027	138.3	1,179	82.4	133.7
	2. 金属製品	22,067	145.1	5,319	6,405	120.4	122.5	10,916	118.4	1,965	77.2	106.6
	3. 一般機械 (内金型)	264,502	164.8	68,446	72,831	106.4	126.4	122,098	115.1	23,526	91.4	97.4
	4. 電気機械	65,645	161.2	16,435	18,253	111.1	129.4	30,977	117.4	6,297	98.0	90.8
	5. 自動車 (内自動車部品)	50,902	167.0	11,825	10,609	89.7	97.2	16,977	89.0	3,222	102.4	86.0
	6. 造船・輸送用機械	225,632	141.9	71,429	72,695	101.8	161.0	116,133	145.9	20,802	91.9	108.1
	7. 精密機械	101,945	132.4	31,391	28,915	92.1	141.9	48,111	136.2	8,786	84.4	121.7
	3～7. 小計	17,328	143.5	4,668	5,115	109.6	183.3	8,963	175.1	1,225	46.7	106.2
	8. その他製造業	32,990	136.5	7,559	8,240	109.0	97.9	13,164	88.8	2,219	82.0	79.9
	9. 官公需・学校	591,354	153.1	163,927	169,490	103.4	135.7	277,335	123.4	50,994	89.7	99.8
	10. その他需要部門	37,643	153.6	9,163	7,369	80.4	77.7	11,602	70.7	2,248	113.2	72.3
	11. 商社・代理店	1,842	98.3	565	440	77.9	64.2	578	67.5	85	160.4	62.0
	1～11. 内需合計	2,971	180.7	617	1,199	194.3	124.6	1,765	128.6	204	56.4	283.3
12. 外需	8,349	127.2	1,934	2,636	136.3	126.2	4,162	114.5	591	63.2	91.2	
1～12. 受注累計 (内NC機)	672,839	152.4	183,782	189,957	103.4	130.8	311,385	119.9	57,266	89.3	99.1	
	563,353	137.6	153,966	143,034	92.9	116.0	246,222	114.4	50,183	94.7	101.4	
	1,236,192	145.2	337,748	332,991	98.6	124.0	557,607	117.4	107,449	91.7	100.2	
	1,176,257	145.7	324,195	317,902	98.1	125.8	534,056	119.0	103,175	91.3	100.3	
NC比率												
販売額 (内NC機)	966,503	127.1	261,016	313,715	120.2	135.6	478,453	132.0	86,157	109.6	122.4	
受注残高 (内NC機)	916,688	126.8	250,130	300,769	120.2	138.1	459,023	134.3	82,521	109.0	123.5	
	576,517	159.6	576,517	585,588	101.6	160.7	629,117	139.5	629,117	101.2	139.5	
	536,135	163.5	536,135	542,536	101.2	164.7	586,372	141.3	586,372	101.4	141.3	

出所 (社) 日本工作機械工業会

「歴史的価値のある工作機械を顕彰する会」 第7回 顕彰式典開催！

去る6月2日、日本工業大学学友会館において日工販が協賛する「歴史的価値のある工作機械を顕彰する会（会長守友貞雄氏）による第7回目の顕彰式典が開催されました。

新日本工機(株)製精密立て中ぐりフライス盤RB- 形が画期的技術で後世の範になった機械としてベストテクニカル賞に選ばれ、長期にわたり需要家の支持を受けた機械としてロングライフ・ベストセラー賞にオークマ(株)製ラジアルボール盤DRAシリーズ、(株)テクノワシノ製光学的ならい研削盤GLS - 80A/125A形、及び(株)吉田鐵工所製直立ボール盤YUD-540形が選ばれ、日本の産業発展に貢献した功績を称え表彰されました。

授賞式では新日本工機(株)常務取締役山口元造氏、オークマ(株)社長柏 淳郎氏、(株)テクノワシノ社長伊熊啓人氏に顕彰機種デザインのデザイン画が彫りこまれた表彰盾が贈呈され、会社が存続していない吉田の直立オール盤に対しては表彰状が授与されました。受賞者を代表して柏 淳郎氏より謝辞があり、表彰式後に開かれた同会懇親会・祝賀会で伊熊啓人氏より受賞の挨拶がありました。

会員・業界消息

関連団体 (社)日本工作機械工業会	会 長	中村健一(中村留精密工業(株)取締役社長)
 (社)日本鍛圧機械工業会	専務理事	佐藤武久
代表者変更	... 東部地区正会員	(株)カナデン	取締役社長 佐田憲彦
 中部地区正会員	(株)大 誠	取締役社長 深田義彦
 中部地区正会員	(株)日本精機商会	取締役社長 柴田 鎮
 中部地区正会員	ワシノ商事(株)	取締役社長 中根敏雄
 賛助会員メーカー	京セラ(株)	取締役社長 川村 誠
 賛助会員メーカー	ブラザー販売(株)	取締役社長 神谷 純
 賛助会員リース	エヌ・ティ・ティ・リース(株)	取締役社長 小出寛治
 賛助会員リース	ダイヤモンドリース(株)	取締役社長 小幡尚孝
 賛助会員リース	東芝ファイナンス(株)	取締役社長 野村克文
 賛助会員リース	日立キャピタル(株)	取締役社長 高野和夫
 賛助会員リース	三井リース事業(株)	取締役社長 松田道男
 賛助会員リース	三菱電機クレジット(株)	取締役社長 荻野興一
窓口変更 賛助会員メーカー	(株)テクノワシノ	旋盤販売部長 菅野善一
 賛助会員メーカー	安田工業(株)	取締役営業部部長 伊藤 伸

行事予定

調査広報委員会	7月20日(水)	機械工具会館
教育委員会	7月26日(火)	機械工具会館
東部地区見学会	8月2日(火)	(株)東京精密、S M C(株)
西部地区リース懇談会	8月3日(水)	大阪弥生会館
東部地区製品研修会	8月25・26日(木、金)	仏教伝道センター
政策委員会	9月7日(水)	安保ホール
定例理事会	9月7日(水)	安保ホール
東部地区研修会・情報交換会	9月9日(金)	仏教伝道センター
西部地区製品研修会	9月12日(月)	大阪弥生会館
展示会		
EMO Hannover 2005	9月14日(水)~21日(水)	ドイツハノーバー
第10回メカトロテックジャパン	10月19日(水)~22日(土)	ポートメッセなごや

編集後記

通常国会は8月13日まで55日間の会期延長を決め、郵政法案は衆議院を通過しましたが、果たして参議院での審議で立法の運びとなるのか、反対多数で否決され衆議院が解散されるのか、自民党内での戦いは混沌としています。

6月21日政府税制調査会は2006年度改正での所得税、個人住民税の税率の見直しに加え、給与控除の削減、退職所得控除の削減等サラリーマンへの課税強化を含めた答申案を発表しました。定率減税の廃止に加え、サラリーマンへの増税が更に加わりそうです。

日工会受注統計速報によれば、6月受注は昨年5月から14ヵ月連続1,000億円超えの1,149億円を計上し、前年比10.6%増と33ヵ月連続プラスを維持しました。外需も33ヵ月連続前年比プラスを維持し15.8%増の525億円となり、前月に32ヵ月ぶりに前年同期比減となった内需も前年同月比プラス6.6%の624億円と再びプラスに転じました。このまま内外需とも高原状態を維持できるか、ここ数ヵ月の推移を見守る必要がありそうです。

久しぶりの好況の中で迎えた通常総会で、出席の皆様の明るい顔が印象的でしたし、懇親パーティでの会話も大いに弾んでいました。この勢いが来年、再来年の総会以降まで続くことを願ってやみません。

6月は全国的に雨量が少なく、場所によっては水不足が心配されていましたが、7月に入り梅雨前線が活発化し列島局所を集中豪雨が襲い、被害を及ぼしました。自然のなせるわざとはいえ、毎年繰り返される災害を防ぐすべはないのでしょうか。

「日工販ニュース」 Vol.17 - No.7

平成17年7月15日発行

発行 日本工作機械販売協会
〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階
電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879
発行責任者 専務理事 荘司 博章
編集 日工販調査広報委員会
委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (50音順)

平成17年7月1日現在

正会員(全73社)

[東部地区(36社)]

(株) 旭 商 工 社
 伊藤忠メカトロニクス(株)
 今井機械工業(株)
 (株) エム エム ケー
 大石機械(株)
 (株) カ ナ デ ン
 (株) 兼 松 K G K
 (株) 京 二
 (株) 共 和 工 機
 群馬工機(株)
 (株) 国 興 會
 (株) 三 機 商 會
 三洋マシン(株)
 サンワ産業(株)
 シマモト技研(株)
 住友商事マシネックス(株)
 (株) セイロジャパン
 誠和エンジニアリング(株)
 太平興業(株)
 (株) 高 橋 機 械
 帝通エンジニアリング(株)
 (株) テ ヅ カ
 東京金子機械(株)
 (株) トーメントソリューションズ
 常盤産業(株)
 トッキ・インダストリーズ(株)
 独協機械(株)
 (株) ト ミ タ
 (株) N a I T O
 日鋼商事(株)
 藤田総合機器(株)
 松茂工販(株)
 三菱商事テクノス(株)
 (株) ヤ マ モ リ
 ユアサ商事(株)
 米沢工機(株)

[中部地区(21社)]

石原商事(株)
 (株) 井 高
 岡谷機販(株)
 カト一機械(株)
 釜屋(株)
 岐阜機械商事(株)
 甲信商事(株)
 三栄商事(株)
 三機商事(株)
 サンコー商事(株)
 三立興産(株)
 下野機械(株)

(株) 大 成
 (株) 大 誠
 (株) 東 陽
 豊田通商(株)
 (株) 日 本 精 機 商 會
 浜松貿易(株)
 (株) 不 二
 山下機械(株)
 ワシノ商事(株)

[西部地区(16社)]

赤澤機械(株)
 伊吹産業(株)
 植田機械(株)
 (株) お じ ま
 関西機械(株)
 京華産業(株)
 五誠機械産業(株)
 桜井機械(株)
 (株) ジ ー ネ ッ ト
 大幸産業(株)
 (株) 立 花 エ レ テ ッ ク
 西川産業(株)
 日本産商(株)
 マルカキカイ(株)
 宮脇機械プラント(株)
 (株) 山 善

賛助会員(全72社)

[製造業(53社)]

(株) エ グ ロ
 S M C (株)
 エヌティーツール(株)
 エンシュウ(株)
 オーエスジー(株)
 オークマ(株)
 大隈豊和機械(株)
 大阪機工(株)
 (株) 岡本工作機械製作所
 (株) 神崎高級工機製作所
 (株) 北川鉄工所
 キタムラ機械(株)
 キャムタス(株)
 京セラ(株)
 (株) グラフィックプロダクツ
 黒田精工(株)
 (株) シギヤ精機製作所
 新日本工機(株)
 住友電工ハードメタル(株)
 (株) ソ デ ィ ッ ク
 大昭和精機(株)
 高松機械工業(株)

(株) ツ ガ ミ
 津田駒工業(株)
 (株) テ ク ノ ワ シ ノ
 (株) 東 京 精 密
 東芝機械マシナリー(株)
 東洋精機工業(株)
 豊田工機(株)
 (株) ナガセインテグレックス
 中村留精密工業(株)
 (株) 日 研 工 作 所
 (株) 日 平 ト ヤ マ
 野村精機(株)
 浜井産業(株)
 日立ツール(株)
 ファナック(株)
 富士機械製造(株)
 ブラザー販売(株)
 豊和工業(株)
 牧野フライス精機(株)
 (株) 牧野フライス製作所
 (株) 松浦機械製作所
 三井精機工業(株)
 (株) ミ ツ ト ヨ
 三菱重工(株)
 三菱電機(株)
 三菱マテリアルツールズ(株)
 (株) ミ ヤ ノ
 メルダシステムエンジニアリング(株)
 (株) 森精機製作所
 安田工業(株)
 ヤマザキマザック(株)

[リース業(19社)]

エヌ・ティ・ティ・リース(株)
 共友リース(株)
 近畿総合リース(株)
 興銀リース(株)
 首都圏リース(株)
 昭和リース(株)
 GEキャピタルリーシング(株)
 住商リース(株)
 ダイアモンドリース(株)
 東京リース(株)
 東銀リース(株)
 東芝ファイナンス(株)
 日本機械リース販売(株)
 日立キャピタル(株)
 (株) 芙蓉リース販売
 三井住友銀リース(株)
 三井リース事業(株)
 三菱電機クレジット(株)
 UFJセントラルリース(株)